

# 国際観光・MICE都市の実現に向けたアクションプラン ( 2010 ～ 2013 )

---

(MICE抜粋)



平成23年1月  
横浜市経済観光局

---

---

## I 分野別の取組

# 1 MICE誘致・開催支援

## (1) MICE拠点の機能強化



### 本市におけるMICEの背景

横浜市は、平成元年以降、コンベンション機能を備えた国際交流拠点として、会議センター・展示ホール・ホテルが一体となったパシフィコ横浜をはじめ、同地区に横浜美術館や横浜みなとみらいホール、アミューズメント施設を集積し、『MICEゾーン』としてみなとみらい21地区を「24時間活動する国際文化都市」として整備してきました。

また、日産スタジアムや横浜アリーナ、横浜国際プールなど多様な施設が完成したことから、コンベンションや見本市・展示会だけでなく、スポーツや文化イベントといった、いわゆるMICE全般を全国に先駆け取組んできました。

この先進的な取組により、国内における知名度や都市としてのイメージやブランド力が向上し、首都東京にはない魅力を持ち合わせ、年間を通じて多くの人たちを迎えています。

※MICE(マيس)とは、Meeting(企業等の会議)、Incentive Travel(企業等の行う報奨・研修旅行)、Convention(国際機関・学会等が主催する総会、学術会議等)、EventあるいはExhibition(イベント・展示会・見本市)の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベント等の総称。



### 現状と課題

本市で開催される国際コンベンションの参加人数は国内第1位で、開催件数は国内第3位の国内有数のMICE都市です。その中で本市のMICE中核施設であるパシフィコ横浜では、年間約1,000件を超える会議、展示などが行われていますが、その一方で、6月、10月、11月は稼働率が高く施設の予約が取りにくい状況になっています。

今後、シンガポールをはじめ、アジアの諸外国との競争に打ち勝つためには、国と連携し、都市の魅力を活かしながら、国際競争力を高める必要があります。

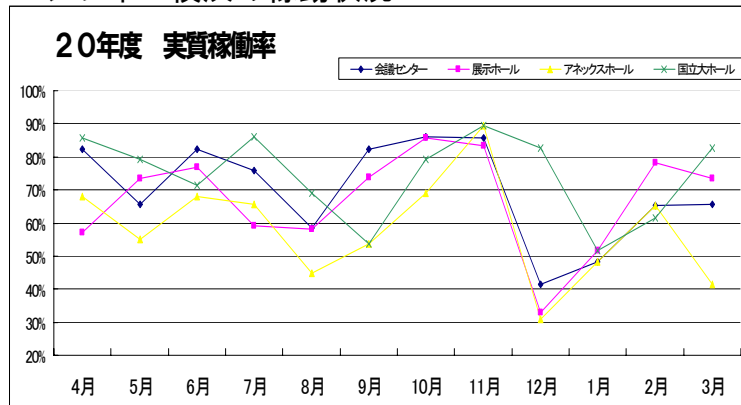
### 都市別国際コンベンション開催実績（平成21年）

①参加者総数		②開催件数		③中・大型開催件数	
1 横浜市	327,513人	1 東京(23区)	497件	1 東京(23区)	58件
2 東京(23区)	152,193人	2 福岡市	206件	2 横浜市	52件
3 福岡市	114,103人	3 横浜市	179件	3 京都市	34件
4 京都市	107,347人	4 京都市	164件	4 大阪市	21件
5 名古屋市	69,416人	5 名古屋市	124件	5 神戸市	20件

資料：日本政府観光局（JNTO）



### パシフィコ横浜の稼働状況



資料：パシフィコ横浜

## 主な意見

- 国際会議のコンペで勝てるハード作りが必要。施設拡充をやっていかないと国際競争に対応できない。
- 大型会議や展示併催の会議はパシフィコ横浜、中・小型会議は他施設やホテルといった役割で推進。
- 世界のコンベンション施設で、施設を30年・40年長寿命化するために改修費を投じているところはない。
- パシフィコ横浜に隣接する20街区をMICE関連施設として活用することを明確に打ち出せば、ホテル業界は他の周辺街区への進出等を検討することになる。  
(アドバイザー会議委員意見)

## 今後の取組

### ●本市におけるMICE開催の現状と分析

市内のMICE開催状況を把握するとともに、MICE開催施設の受入能力を調査し、本市全体のMICE対応力を把握する。また、本市と都市構成が類似している海外MICE都市の取組及び比較を行います。

### ●MICE機能強化策の具体的な検討

国際競争力を高めるため、パシフィコ横浜をMICE拠点とし、パシフィコ横浜に隣接する20街区を含めた周辺エリアをMICEゾーンと位置づけ、多角的な視点からMICE機能強化策について検討します。

## 指標

《達成指標》国際コンベンション開催件数 220件（平成25年目標）平成21年から2割増

《活動指標》インフォメーションデスクの設置等支援 85件（平成25年度まで累計）15件から毎年1件増

## 参考

本市の「中期4か年計画」（原案）の成長戦略のひとつとして『羽田空港の国際化を契機とした国際観光コンベンション施策の推進』を掲げている。その課題解決に向けた基本的な方向性として、シティセールス効果及び経済波及効果の高い中・大型の国際会議の誘致・開催支援を進めるため、パシフィコ横浜をMICE拠点として機能強化を検討することとし、今後4年間に於けるMICEに関する取組を強化します。

また、国との連携を強化するため、平成22年6月にMICEに関する国家予算要望を行うとともに、同年9月に国際戦略総合特区の提案を行いました。

## アクションプラン

		国際コンベンション件数	MICE拠点機能強化	パシフィコ横浜の経営改善
21年度末の現状		平成21年 <b>179件</b>	MICE拠点施設パシフィコ横浜の稼働率が限界に近づいている	建築後20年が経過し、大規模改修が必要
各年度の取組	22年度	平成22年 <b>189件</b>	国家予算要望 国際戦略総合特区提案	「パシフィコ横浜・将来ビジョン検討委員会」提言 横浜市外郭団体等経営改革委員会提言
	23年度	平成23年 <b>199件</b>	MICE施設の機能強化に向けた調査（必要な機能の確定）	各委員会からの提言等を踏まえ方向性を検討
	24年度	平成24年 <b>209件</b>	MICE施設の機能強化に向けた検討	安定した経営に向けた具体的な取組
	25年度		計画の策定	安定した経営に向けた取組及び検証
25年度末までに達成すべき成果目標		平成25年 <b>220件</b>	機能強化に向けた計画が策定されている	将来に向け安定した経営見通しが立っている

## 現状と課題

海外において横浜の知名度は低く、横浜のMICEの顔となる人材が不足しています。MICE都市・横浜の海外への戦略的なプロモーションを展開するうえでは、現在行っている海外での商談会、見本市への出展、国内キーパーソンを中心とした横浜説明会の開催、国際会議のキーパーソンの招聘など、継続的なフォローが不可欠です。

また、MICEの誘致について、中・大型の国際コンベンションを軸にシティセールス性の高いコンベンションを積極的に誘致していますが、MICE施設の中心であるパシフィコ横浜の稼働率が高いため、現状では市内の他施設への誘導など、大学を含め、広域的に展開する必要があります。

## 国際コンベンション開催件数（平成20年）



(1) 国内大学における開催件数

九州大学	67
京都大学	64
名古屋大学	48
北海道大学	30
神戸大学	27
東北大学	25
国連大学	23
東京大学	22

(2) 市内大学における開催件数

横浜国立大学	9
神奈川大学	7
慶應義塾大学（日吉）	4
東京工業大学（すずかけ台）	4
桐蔭横浜大学	2
フェリス学院大学	2
カリタス女子短期大学	1
横浜国立大学	1

資料：日本政府観光局（JNTO）

上記のように、国内の大学においては、国際コンベンションが多数開催されており、市内の大学の開催状況とは大きく状況が異なっています。羽田空港の国際化を契機に、大学における国際コンベンションを増加させるために様々な取組や支援を行う必要があります。

## 主な意見

- ☞国際会議の事務局の力も重要である。横浜の顔となる人がいない今、長期的な場面では必ず必要。ソウルでは、同じ人がずっと出るような方式に変えた。海外でのネットワークを作る必要がある。
- ☞誘致、セールスとマーケティングを分けて議論すべきである。前者は施設等の受皿、人員体制の問題であり、後者は、開催のマーケティングに力を入れ、満足度の向上を図るべきである。安定的・継続的に開催してもらうために、営業活動が必要のない関係を築き上げ、持続可能な仕組みをつくる必要がある。
- ☞D・M・O（C）（デスティネーション・マネジメント・オガナ化イション）や、FACE（F（ファシリティ）、A（アクセス）、C（カルチャー）、E（エンターテイメント）の実現を目指すべきである。
- ☞横浜らしさを出すことが必要であり、物語性があるコンベンションを作っていくことが重要。その際、誰の眼で語るかを考え、一人称の物語を作っていく必要がある。
- ☞国際会議の誘致だけでなく、創出する必要がある。たとえば、日中韓だけでも国際会議になる。
- ☞横浜は外から見ただけではポテンシャルがあるか見えない。メディアを活用し、知名度を上げる取組が必要である。
- ☞どこでも羽田空港国際化を契機に売り込もうと考えている。その中で飛び出すにはそれなりのものが必要。
- ☞MICEの中のどこを狙うのかターゲットを絞り、その受け手側にあわせ、個々に施策を打つ必要がある。
- ☞持続的継続的に事業を推進させるためには、マーケティングは不可欠である。

（アドバイザー会議委員意見）

## 今後の取組

### ● I C C A (International Congress and Convention Association) 総会及びエリア別会議への出席

I C C A総会時（毎年秋に開催）には、研修プログラムやネットワーキングの機会が提供されているため、人脈形成にも資するため、継続して出席します。また、I M E X（フランクフルト）等の主要なトレードショーについても、情報取得及び横浜の知名度向上のため継続して出席します。



### ● ホテルや大学等における開催促進

ホテルや施設との連携を強化して、開催情報を定例的に把握し、開催を促すための活動を行ないます。大学や研究機関等については当面、横浜市内にある30大学を重点ターゲットとし、本市の大学担当部署と連携し、情報収集・開催支援・研究者との人脈作り等、能動的に顧客の開拓を行います。

### ● C S（顧客満足）向上の推進

市内で開催されたコンベンションの主催者・関係者に対しヒアリングを行い、C Sの推進を図り、その後のマーケティングに繋がります。

### ● (財)横浜観光コンベンション・ビューローの役割強化

(財)横浜観光コンベンション・ビューローは山下関内地区や、新横浜地区などの各エリアをつなぐコーディネーター役として、地区ごとのM I C E推進の取組に参画します。また、エリア別の開催実績を把握するとともに、情報の集約機関としての役割を果たし、双方向で誘致活動を実施します。

M I C Eのグローバルスタンダード「R F P (Request For Proposal:提案依頼書)」への48時間以内への回答ができる体制について検討します。

## アクションプラン

		海外セールス活動	国内セールス活動	MICE都市プロモーション	横浜観光コンベンション・ビューローの役割強化
21年度末の現状		・商談会出展 ・前回開催地での誘致セールス	・主催者、代理店向け説明会	広告掲出	横浜観光コンベンション・ビューロー賛助会員への情報発信
各年度の取組	22年度	・主催者招聘 ・商談会出展（IMEX等） ・前回開催地での誘致セールス	・主催者、代理店向け説明会	広告掲出 セールスツール作成	MICE部会の運営 市内の会議施設・ホテル・大学との連携
	23年度	IMEX等で積極的な広報等	MICE説明会の開催 市内大学及び国内主催者等へのセールス	MICE専門誌への広報等	MICE部会と連携 大学への支援策強化
	24年度	海外商談会への継続出展	市内大学及び国内主催者等との連携強化	MICE専門誌への広報等 セールスツールの検討	MICE部会の運営 大学等との連携強化
	25年度	海外ネットワーク強化	継続	継続	継続
25年度末までに達成すべき成果目標		海外主催者とのネットワークが構築され、誘致活動が推進されている	国内主催者、代理店とネットワークが構築されている	MICE都市としての知名度が向上している	市内のホテル等各所で国際会議が開催されている



## I 分野別の取組

# 1 MICE誘致・開催支援

## (3) MICE開催支援



### 現状と課題

本市は、コンベンション施設の中核施設である「パシフィコ横浜」を中心に高い水準の施設が揃っていますが、ソフト面での一層の充実が課題となっています。

現在、コンベンション開催支援補助金のほか、横浜インフォメーションデスクの設置や、歓迎横断幕の掲出など、主催者や参加者から好評を得ていますが、横浜の街全体がMICE開催を歓迎していることがMICE主催者や参加者に伝わるのが重要です。



市民サポーターによるインフォメーションデスク

### 主な意見

- ☞横浜のステータスを確保し、国際都市力を向上させるためには、人材育成が欠かせない。その基本能力として、語学力、特に英語と中国語が必要である。
  - ☞①アミューズメント ②食べ物 ③物販（おみやげ）④サービス（ハードとソフト）のバランスが取れていることが、質の高いおもてなしになることを念頭に、施策を進めていく必要がある。
  - ☞新横浜や山下関内などエリア別に展開できるのではないかと。その結節点になるのが（財）横浜観光コンベンション・ビューローであると考えている。
  - ☞（財）横浜観光コンベンション・ビューローがコンサル機能（コンペの内容を見るなど）を持つ必要がある。メニュー作りの支援等も必要。
  - ☞大学におけるキーマンを育てるため、大学以外のMICE関係者が協力していく必要がある。海外の学会にいけないという先生も今後出てくるかもしれない。また、大学の先生が主催としてやろうと思っている人を後押しするようなしくみを作る必要がある。
  - ☞羽田空港などMICEのVIP専用のレーンを確保するなど、訪日から優先的に対応する必要がある。
- （アドバイザー会議委員意見）

### 今後の取組

#### ●民間事業者の協力体制の構築

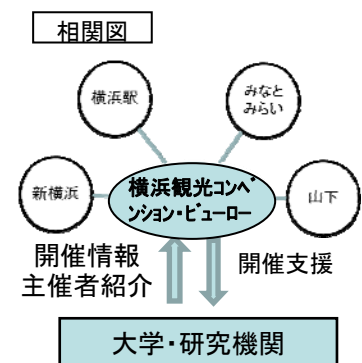
市内の宿泊施設に対し、数年先の客室確保やコンベンション価格等について、協力・理解を得るとともに、市内で利用ができる割引パスポートの導入など民間事業者と連携し、おもてなしの取組を進めます。

#### ●民間事業者主体によるMICE推進

みなとみらい地区（PCN会）、山下地区（山下MICE）、横浜駅周辺、新横浜（新横浜MICE委員会）の各エリアで（カッコ内は会議体の名称）MICE開催におけるエリア独自の付加価値を明確にすることにより、ブランディングを行い、プロモーション活動を進めます。

#### ●市民力の活用

横浜観光コンベンションサポーターの横浜に関する知識の習得とおもてなしの心を醸成するための研修を行うとともに、サポーターの活躍の場を増加させます。



### ●産学連携を通じたMICEの人材育成・横浜MICE大学（仮称）の創設

大学等と連携し、受入留学生との学外交流の場として国際会議の場を提供できるような仕組みを作ります。

また、横浜MICE大学（仮称）を創設し、市内外からのMICE有識者を講師にMICE講座を新設し、MICE分野の人材育成を推進します。

### ●補助制度の新設など新たな支援策の提供

コンベンション主催者のニーズや、トレンドに合わせ、補助制度の新設や制度自体の見直しを図るとともに、国際会議の参加者に対し、市長の歓迎メッセージカードを配布するなどの新たな支援策を検討します。

### ●規制緩和

国に対して行った国際戦略総合特区の提案（平成22年9月）を契機に、引き続き規制緩和の実現に向けて働きかけを行います。また、市内において利用が制限されている駅構内や周辺施設などへのフラッグや横断幕の掲出などの利用調整を引き続き行います。

## アクションプラン

		市内関連事業者との連携	ホスピタリティ支援	横浜MICE大学（仮称）の創設	補助制度	規制緩和
21年度末の現状		PCN会を通じた市内事業者間における情報共有	インフォメーションデスク等 支援件数 <u>15</u> 件	—	コンベンション開催支援補助	各施設等との調整
各年度の取組	22年度	PCN会・MICE部会による連携強化	支援対象の増加 支援件数 <u>16</u> 件	事業スキームの検討	新たな補助金の創設	国際戦略総合特区提案
	23年度	部会による新たな取組を実施	支援に対するヒアリング及び検証 支援件数 <u>17</u> 件	事業スキームの検討 大学の創設 受講生 <u>20</u> 名	補助制度の改定(予定)	市内各施設等との調整 国への働きかけ
	24年度	取組の継続	支援内容の検討及び充実 支援件数 <u>18</u> 件	大学運営 新たな取り組みの検討 受講生 <u>50</u> 名	補助制度のPR及び制度の検証	市内各施設等との調整 国への働きかけ
	25年度	主体的にMICE関連の取組を実施	支援内容の検討及び充実 支援件数 <u>19</u> 件	大学運営 新たな取り組みの検討 受講生 <u>50</u> 名	補助制度のPR及び検証	市内各施設等との調整 国への働きかけ
25年度末までに達成すべき成果目標		MICE開催の意義が市内事業者に醸成されている	インフォメーションデスク等 支援件数 <u>19</u> 件	MICE分野の人材育成を推進している 受講生累計 <u>120</u> 名	補助制度が周知され、活用されている	規制が緩和され、MICE都市としての魅力が増している

## I 分野別の取組

# 1 MICE誘致・開催支援

## (4) アフターコンベンションの充実



### 現状と課題

コンベンションの主催者や参加者は、まちの景観や観光施設の見学だけでは満足せず、歴史、文化施設など普段体験できない感動を求めています。そのため、通常では使用できない公共施設等の利用のニーズが高くなっています。市内には多くの歴史・文化的施設がありますが、利用制限などによって、アフターコンベンション施設として十分に活用できていない状況にあります。

国内外では、その都市ならではのアフターコンベンションのメニューを充実図っており、本市もアフターコンベンションメニューの多様化・充実、「コンベンション参加者市内観光促進補助金」のPR、市内の文化施設等の活用についての庁内協力体制を構築するなど、様々な取組を進め、横浜の魅力をさらに向上させる必要がある。



レセプション会場として人気の高い三溪園

### 実績

#### 市内観光促進補助金交付申請状況（申請件数：18件）（平成22年度）

【凡例】（国際）国際会議、（国内）国内会議、（展示）展示会

レセプション（10件）	アトラクション（6件）	エクスカージョン（4件）
横浜美術館（国内）	プロバンド演奏（展示）	バスの借上（市内施設見学）（国際）
三溪園（国際） 2件	雅楽演奏（国際）	バスの借上（中華街・鎌倉）（国際）
屋形船（国際）	ピアノ演奏（国際）	バスの借上（市内観光施設）（国際）
横浜クリエイティブセンター（国際）	横浜百姫隊・琴演奏（国際）	バスの借上（市内文化施設）（展示）
船貸切：マリニルージュ等（国際）3件	和琴演奏（国際・展示併催）	資料：横浜市経済観光局
船貸切：マリニルージュ等（国内）2件	狂言（国際）	

※申請項目が複数あるため、申請件数とレセプション等との合計数は合いません。



日本文化の紹介（折紙体験）

### 主な意見

- シンガポールや香港・マカオなどは、過去の文化から生まれたもので、それが今では非日常的になっていることから魅力が生まれている。生活者の街に対する魅力が高まれば、コンベンション参加者もその魅力を感じる。
- 横浜は夜が早い。各事業者の事情もあり、難しい問題だが、ルールをつくり、街づくりを進めていく必要がある。
- 横浜は来た人には冷たい。参加者を主催者に変える（ファン作り）取り組みをする必要がある。参加している人は、国や組織のリーダー的な存在の人なので、活力がある。そこでしっかりアピールできるツールを提供できると将来につながる。  
(アドバイザー会議委員意見)



## 今後の取組

### ●アフターコンベンションメニューの開発・発掘及び利用促進

(財)横浜観光コンベンション・ビューローとの連携を強化し、国内外の事例や取組を調査するとともに、市内の魅力資源を活用し、新たなメニュー作りを進め、MICE主催者等に広くPRします。

### ●市内事業者との連携強化

ここでしか体験できない横浜ならではのメニューを市内事業者と連携して取り組みます。

### ●規制緩和

普段レセプション会場として利用できない施設などの利用調整を行います。

## アクションプラン

		アフターコンベンションメニューの開発・発掘及び促進	規制緩和	市内観光促進補助金の交付
21年度末の現状		アフターコンベンション メニュー数 62件	各施設等との調整	制度なし
各年度の取組	22年度	メニューの開発及び発掘 メニュー数 65件	市内各施設等との調整	補助金の交付及び分析
	23年度	メニューの開発及び発掘 発掘したメニューの実施及びPR メニュー数 68件	市内各施設等との調整	補助金の交付 主催者等へのヒアリングを通じた補助制度の研究
	24年度	メニューの開発及び発掘 発掘したメニューの実施及びPR メニュー数 72件	市内各施設等との調整	補助金の交付 主催者等へのヒアリングを通じた補助制度の研究
	25年度	メニューの開発及び発掘 発掘したメニューの実施及びPR メニュー数 76件	市内各施設等との調整	補助金の交付 補助制度の見直し
25年度末までに達成すべき成果目標		メニューが充実し、実績が増えている メニュー数 76件	規制が緩和され、MICE都市としての魅力が増している	市内観光促進補助金制度が主催者のニーズやトレンドにマッチしている

## I 分野別の取組

# 1 MICE誘致・開催支援

## (5) 集客力あるイベントの開催支援



### 現状と課題

イベントを開催しやすく、また市民が楽しめる街として賑わいを創出し、観光関連産業への経済波及効果をもたらすことが求められています。特に、市民のための“お祭り”としてのイベントだけでなく、市外からの集客効果とシティセールス効果の高いイベントが開催されることが期待されています。

しかし、現在の経済状況を反映して企業によるイベントへの協賛が減少しており、資金力の弱体化によるイベントの縮小や廃止が進んでいます。また、各局所管で実施しているイベントの時期や窓口が重複していることも課題となっています。

	春(4～6月)	夏(7～9月)	秋(10～12月)	冬(1～3月)
集客イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の大道芸</li> <li>・ザよこはまパレード</li> <li>・横浜開港祭</li> <li>・横浜セントラルタウンフェスティバル(Y151)</li> <li>・ヨコハマ・ハワイ・フェスティバル</li> <li>・横浜ドラゴンボートレース</li> <li>・横浜フランス月間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜スパークリングトワイライト</li> <li>・アロハヨコハマ</li> <li>・アレグリア・デ・メコ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜オクトーバーフェスト</li> <li>・ワールドフェスタ・ヨコハマ</li> <li>・新横浜パフォーマンス</li> <li>・ディワリ・イン・ヨコハマ</li> <li>・横浜タイ・フェスティバル</li> <li>・ラリーニッポン</li> <li>・キャンドルカフェ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜中華街春節(燈花含み)</li> <li>・(横浜駅西口)スターライトヨコハマイルミネーション</li> <li>・アートリンク</li> </ul>
ビジネス系イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JRC</li> <li>・自動車技術展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオジャパン</li> <li>・G空間EXPO</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館総合展</li> <li>・FPDインターナショナル</li> <li>・組込み総合技術展</li> <li>・国際画像機器展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CP+</li> <li>・国際フィッシングショー</li> <li>・ジャパンインターナショナルポートショー</li> </ul>
スポーツイベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィットネスヨコハマ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YOKOHAMAビーチフェスタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・レクリエーションフェスティバル</li> <li>・横浜シーサイドトライアスロン大会</li> <li>・横浜マラソン大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜国際女子マラソン大会</li> <li>・(卓球)アジアカップ横浜大会</li> </ul>

### 今後の取組

#### ●既存イベントの継続性強化

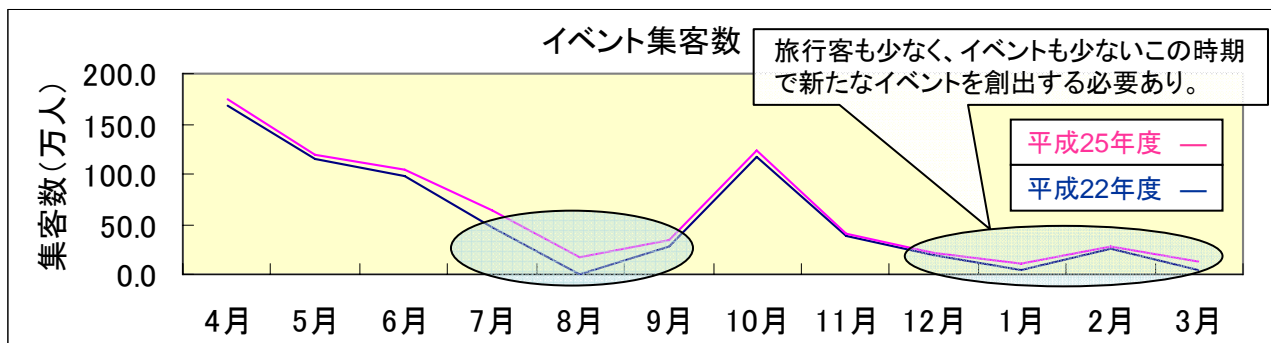
永年市民に親しまれているイベントへの企業・団体等協賛が減少傾向にあり、その継続が危ぶまれています。イベントの魅力・情報発信力の向上を図り、継続性を強化します。

#### ●話題・注目度の高いイベントや展示会等の誘致

話題性・注目度の高いイベントや展示会等を誘致し、市内だけでなく市外からの誘客を促進します。また、横浜らしい国際色あるイベントを継続して誘致し、街の賑わいを創出します。

#### ●効果的な誘客を目指して

8月(夏季)や1月～3月(冬季)のイベント開催が少なくなっています。夏季は夏休み期間で市内外からの集客と回遊性はありますが、冬季は旅行客等の集客が少なく閑散期に相当します。今後は冬季の閑散期にイベントを誘致することで、閑散期の市内活性化を進めます。



資料：横浜市経済観光局

## アクションプラン

		集客イベント	ビジネス系イベント (展示会等)	スポーツ 文化イベント等
21年度末の現状		補助金の交付 後援／共催の提供 広報支援 庁内、施設、企業との調整等	補助金 後援／共催の提供 各種施設との調整等	補助金の交付 後援／共催の提供 庁内、施設、企業との調整等
各年度の 取組み	22年度	支援方法の整理	支援拡充（アフターコンベンション）	支援方法のあり方検討
	23年度	イベント間の連携/調整や選択集中による効果的な支援体制の構築		
	24年度	23年度の体制を踏まえた支援の実施		
	25年度	24年度の体制を踏まえた支援の実施と誘致施策の展開		
25年度末までに達成すべき成果目標		支援を通じてコスト管理やリスク管理がより強化されるとともに、イベント間でプロモーションや資金力等のシナジー効果が高まっています。 また、本市のイベント行政においてワンストップサービスが実施され、効果的な開催支援が提供されています。		

### 主な意見

- 市・経済界一体となった観光イベントを継続的に開催するため、必要な措置を講じられたい。  
(横浜商工会議所（「平成23年度横浜市政に関する要望書」より一部抜粋）)
- マーケティングで、誰に、何を、どのように伝えるかを分析し、実践していくことが重要である。  
(アドバイザー会議委員意見)



ザよこはまパレード(5月)



横浜開港祭(5月)



横浜セントラルタウンフェスティバル(6月)



横浜スパークリングトワイライト(7月)



ワールドフェスタ・ヨコハマ(10月)



ディワリ・イン・ヨコハマ(10月)